

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2020年 第3週（1月13日～1月19日）

今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用、ワクチン接種が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 今後の動向に注意」

第3週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,672例であり、前週比18.2%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、伝染性紅斑、水痘の順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.60、2.11、0.46、0.42、0.29であった。

感染性胃腸炎は前週比20%減の906例で、大阪市西部7.22、南河内6.75、中河内5.80、大阪市北部5.64、北河内4.56である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は増減なしの415例で、南河内3.81、堺市3.11、北河内2.70であった。

RSウイルス感染症は5%減の91例で、大阪市北部1.00、北河内0.67、南河内・大阪市西部0.56である。

伝染性紅斑は20%減の82例で、南河内1.25、泉州・大阪市北部・大阪市南部0.50であった。

水痘は46%減の58例で、大阪市北部1.00、三島0.47、豊能0.41である。

インフルエンザは2%減の5,569例で、定点あたり報告数は18.56であった。大阪市西部34.86、南河内27.00、大阪市北部26.75、北河内18.79、泉州18.42である。全ブロックで注意報レベルである10を超えている。

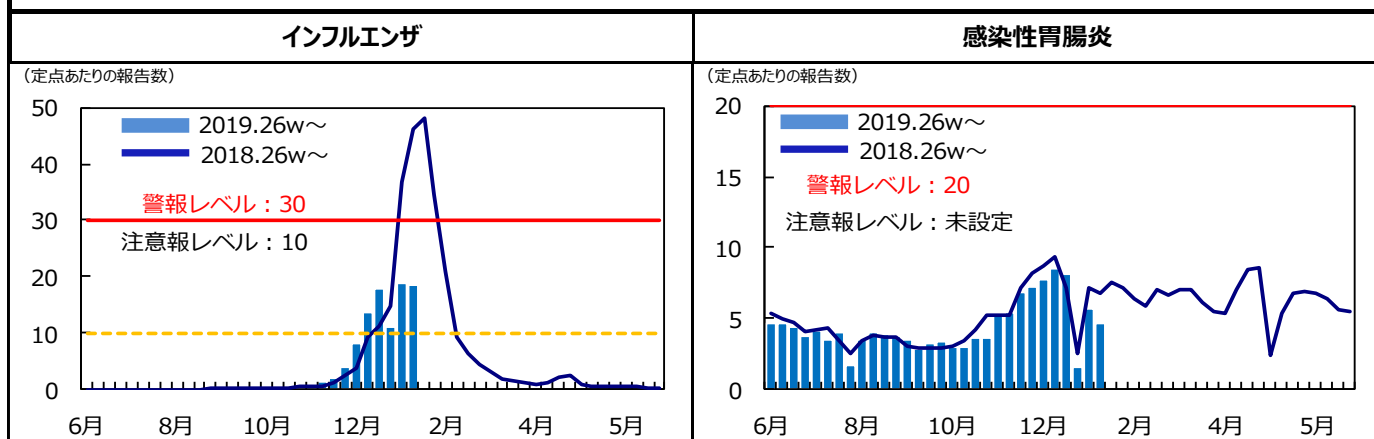


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2020年 第3週1月13日～1月19日）

第3週の順位	第2週の順位	感染症	2020年 第3週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2019年 第3週の 定点あたり 報告数	2020年第3週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.60	20%減	6.82	1歳_16%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.11	0%増	1.91	6歳_14%
3	5	RSウイルス感染症	0.46	5%減	0.62	1歳_36%
4	4	伝染性紅斑	0.42	20%減	0.56	5歳_24%
5	3	水痘	0.29	46%減	0.27	10-14歳_16%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	18.56	2%減	46.09	20歳以上_21%

第3週のコメント

～バンコマイシン耐性腸球菌感染症～ 2019年の報告数は、大阪府が全国で第一位である

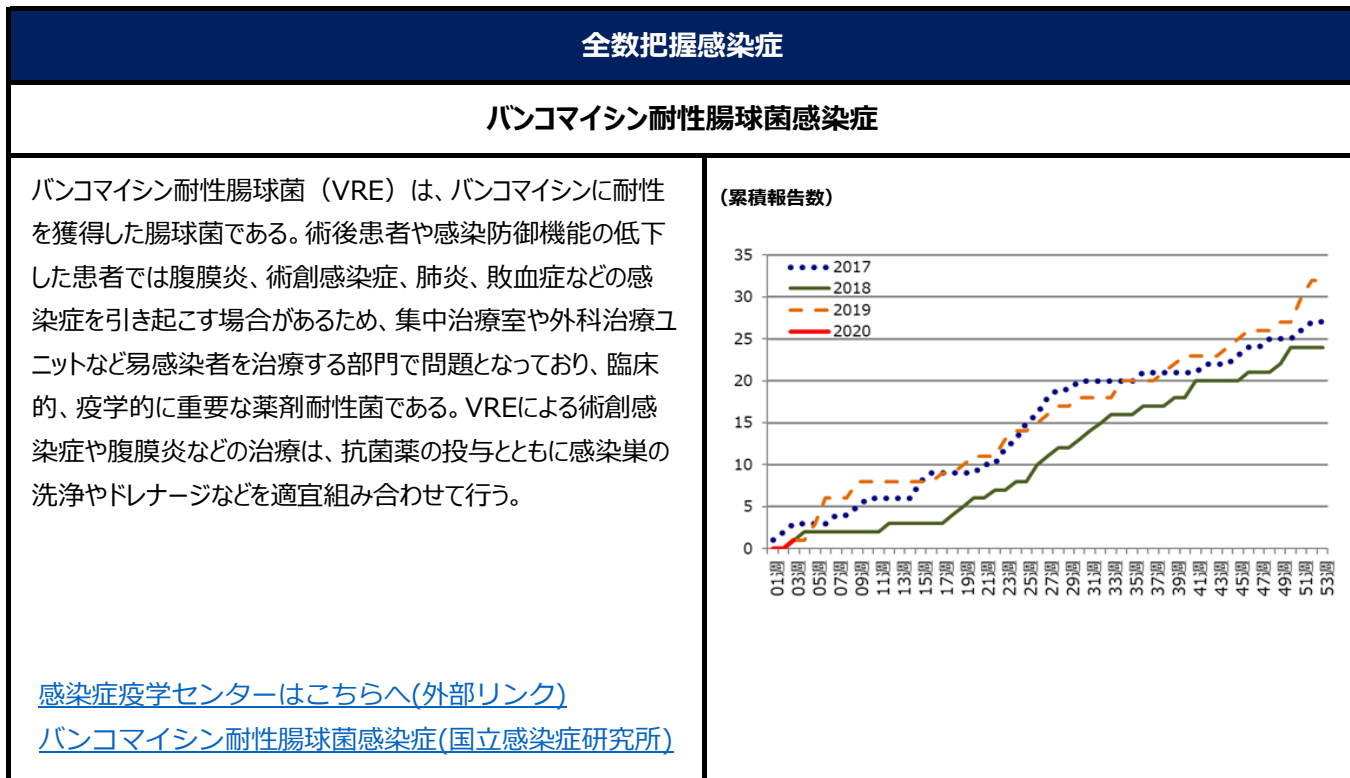


表2. 大阪府全数報告数（2020年 第3週1月13日～1月19日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】発生動向調査>全数報告 をご覧ください。）

	疾患名 〔 〕内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告 数	豊 能	三 島	北 河 内	中 河 内	南 河 内	堺 市	泉 州	大 阪 市	府 内 累 積 報 告 数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1								1	2
4 類感染症	デング熱	1			1						2
	マラリア	1								1	1
	レジオネラ症（肺炎型）	1						1			10
5 類感染症	ウイルス性肝炎（B型）	1						1			1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3		1	1			1			8
	急性脳炎	1	1								4
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1								1	4
	侵襲性肺炎球菌感染症	4		1			2			1	10
	梅毒	14	2				2			10	34
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1			1						1
百日咳	4	1							3	9	
結核 (2019年11月分)	結核 新登録患者数：102名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 31名) (府内累積報告数 1,130名、内 肺・喀痰塗抹陽性 434名)										

(2020年1月21日 集計分)